

## 日本倫理・哲学グランプリ（2015）

課題（次の4題のうちから1題選択すること）

- ① 神々にとってはすべてのものが美であり、善であり、正であるが、しかし人間どもは、そのあるものを不正、あるものを正と考える。（ヘラクレイトス）
  
- ② 自立ということをわたしたちの社会は、さまざまなことを自分でできること、（自分の身体を含めて）生きるに必要な多くのものを意のままにできることとして了解してきた。が、何かを意のままにできるということが自立なのではない。そうではなくて、意のままにならないということの受容、そういう「不自由」の経験をおのれのうちに深く湛えつつ、何かを意のままにするという強迫から折れることを自然に受け容れるようになるのが、ほんとうの自立なのであろう。……とすれば、「自立」とは、「独立」、すなわち他人に依存していないこと（in-dependence）ではなく、他人との相互依存（inter-dependence）をこそ意味するはずだ。困ったときに「助けてくれ」と声を上げれば、それにきちんと応えてくれる支えあいのネットワークのなかにあるということこそほんとうの「自立」であり、そのネットワークを支える活動が「自立支援」であるはずだ。（鷲田清一『わかりやすいはわかりにくい』）
  
- ③ 蜘蛛は、織匠の作業にも似た作業をするし、蜜蜂はその蟻房の構造によって多くの人間の建築師を赤面させる。しかし、もともと、最悪の建築師でさえ最良の蜜蜂にまさっている。というのは、建築師は蜜房を蟻で築く前にすでに頭のなかで築いているからである。労働過程の終わりには、その始めにすでに労働者の心像のなかには存在していた、つまり観念的にはすでに存在していた結果が出てくるのである。（カール・マルクス『資本論』）
  
- ④ 心だに誠の道にかなひなば 祈らずとも神や守らむ （菅原道真）